

# 栄村の復興を願い、「福幸そば」販売 (長野県生協連)

長野県生協連は、長野県下水内郡栄村産のそば粉を使用した生麺「福幸そば(生)」を開発しました。

産地である栄村は、2011年3月12日に起きた長野県北部地震(通称名)の被害に見舞われた地域で、震度6強を記録しました。地震の影響により米の作付けや耕作ができなくなった水田の一部を、復旧するまでの間そば畑に転用しており、「福幸そば」は、そのそばを商品化したものです。

現在、1都13県の生協にて供給されています。



地震の被害を受けた田んぼ。ここにそばを植えた。  
(撮影:2011年6月1日、写真提供:(財)栄村振興公社)



## 「伝えたい被災地」

このコーナーでは、ライター荒川和巳さんが被災地に行き、見たもの、感じたものをお伝えしていきます。

「仮住の なれぬ水仕や 春浅き」(星野立子)

この歌は、しばらく仮住まいをすることになった人が、勝手に違う台所で苦労する風景をうたったものらしいのだが、今、この句で真っ先に思い浮かぶのは、仮設住宅のくらしぶりだ。狭いから食材の買い置きもしにくく、せつかくの料理の腕も振るえない。

何度か炊き出しやリフレッシュツアーに同行取材させていただいているが、色とりどりのおかずの入ったお弁当やバーベキューを前にした時の、仮設住宅にお住まいの皆さんの言葉が耳に残っている。

「仮設は台所が狭いから、作るのもたいへんでね」「一人分のおかずを作るのはかえってもったいなくて」「ホットプレートが使えないから、バーベキューや焼き肉はうれしい」

ただでさえ不自由なのに、おいしいものも食べられない生活はいつまで続くのか。でも、生協が支え続けているのを取材できるのはうれしい。「全員が仮設住宅を笑顔で出られるまで、生協は寄り添いますよ」

多くの生協関係者が、「支え続ける」という決意を共にしている。生協ならではの支援をずっと続けていってほしい。

さて、このコラムも今回で最終回となりました。拙文を最後までお読みいただき、ありがとうございました。



解体が決まった第18共徳丸(宮城県気仙沼市)。  
※写真と本文は関係ありません。

## 「震災後の復興支援活動」に関する書籍のご案内



西村一郎/著 B6版・301頁  
ISBN: 978-4-87332-314-5  
定価: 1,470円(本体+税)

各地から岩手に届けられた笑顔、被災者につなげた貴重な記録と未来への提言! 協同の力による岩手での復興の取り組みには、今後の災害にどう対応すればよいかのヒントが込められています。



永井雅子/著 B6版・270頁  
ISBN: 978-4-87332-319-0  
定価: 1,470円(本体+税)

2011年3月11日、午後2時46分……あなたは、その瞬間、どこにいましたか? 何をしていましたか? ちばコープの震災以後の復興支援の取り組みを記録しています。



西村一郎/著 B6版・290頁  
ISBN: 978-4-87332-321-3  
定価: 1,470円(本体+税)

同じ地域で暮らしている人、東北からの避難者、現存しているだけでなく、亡くなった方の願いや将来の社会で暮らす人々にも心を配る“協生社会”をめざして。埼玉県内の避難者支援の取り組みを記録しています。